新春知事対談（福井放送）

　このページは、令和５年１月３日（日）に福井放送で放送された新春知事対談番組の内容をまとめたものです。

　番組では、高橋愛（たかはし・あい）さん（モデル・女優）、靏田一登（つるた・かずと）さん（（株）Aithra代表取締役）を招いて、県民のチャレンジを応援する取組みについて語り合いました。

**（チャレンジ応援）**

【司会】

今回のテーマは県民のチャレンジ応援ということですけれども、今年挑戦してみたいことみなさんありますか。まずは高橋さん。

【高橋】

私、最初からぶっとんでいるんですけどドバイに住みたいです。

ドバイってすごく世界の物が集まっていたりして、しかも王様がつけている布って日本製の物なんです。ですので福井の生地を持っていって何かできないかなっていうのを思っています。

【司会】

靏田さんはいかがですか。

【靏田】

個人的な事になるんですが子どもが産まれまして。

子どもが１歳になるまで１年間ずっと映像を撮り溜めて作品を作りたいなって思っています。

【司会】

さて、今回のゲストのお二人のように若い人たちがいろいろなことにチャレンジすることについて知事どう思われますか。

【知事】

ドバイに行きたいとか、赤ちゃんの１年間を撮り溜めたいとか、そういう夢のあることがなかなかないので、話を聞いていても、気持ちも明るくなりますし、是非応援したいなというふうに思いますね。

【司会】

県では若者のチャレンジ応援の取り組みとして昨年仮想大学を設置しました。その取り組みについて詳しく教えてください。

【知事】

エキセントリックカレッジ・ふくいといい、昨年の９月から開校しており、毎月３回くらいは受講して、合宿もあったりして、みんなでワイワイガヤガヤ議論したり講師・先生からいろいろな話を聞いて、それを刺激を受けて新しいことをやりたい、そういうようなことを話し合っている場になっていると思います。

【司会】

今、知事からもお話がありましたけれども、高橋さんは講師として生徒のみなさんにはどんなお話をされたんですか。

【高橋】

講義では私の人生についてや普通の事を普通だと思わないことについてお話させていただきました。そういう事を話せるという場所がすごく素敵で、それを受け入れてくれる場所っていうのが生徒のみなさんにとってもすごく楽しいというか、良いんだって思わせてくれる場所だって思いました。

【司会】

高橋さんの声が誰かの第一歩を踏み出すきっかけになっていたら嬉しいですよね。靏田さんは受講生としてですが、どうしてカレッジに参加しようと思われたんですか。

【靏田】

何か刺激が欲しかったな、というところがきっかけではあったんですけど、実際受講してみて、高橋さんの１回目からすごくて。

やっぱり、カレッジって言うからには学校みたいな感じだと思って参加しましたが、１回目からそんな片鱗は全くなく。

1回目の講義を聞いて、みんな、あんな感じで良いんだって思えたのか、合宿でも和室に２０人くらい集まって、みんなであぐらをかいてしゃべりながら、学ぶというより話し合いました。

これが地元の福井で体感できることがこれからあるかなと思ったら本当すごいなと思って参加させていただいています。

【知事】

「奇抜を助長し合い異端をお互いに楽しみ合う」というコンセプトなんですが、奇抜や異端は、その時は奇異に感じるんですけど、後から見ていくと、そこから時代が始まっていく。時代を捉えているから次に新しい展開になっていくので、そういう意味では奇抜とか異端とかって本当大事だなと思います。

ここで何か結論を出そうとか、そういうのは全然必要なくて、楽しみながら、楽しむ事で触発したり新しい展開があるので、それをさらに応援するのが私の仕事だと思っています。

【司会】

県ではこの他にも県民のチャレンジ応援のためにユニークな取り組みを積極的に進めていらっしゃいます。知事はどんな思いでこの取り組みを進めていらっしゃるのでしょうか。

【知事】

みなさん自分でも考えると思うんですけど、一生懸命チャレンジしている時は、後から見ても、「あ～あの時代良かったな」と思うし、その時はワクワクしているというか、本当に集中してものに取り組んでいて、成長する良い機会だと思います。

福井県はどちらかというと引っ込み思案だとか真面目だとかよく言われますけど、私が見ていると本当のところを言うと福井県の人ってけっこう楽観的で、新し物好きというか、だから社長排出立日本一なのかなとも思います。起業家精神と言うかチャレンジ精神にあふれていると思います。それが雪国だからというか地域性なのか、少し大人しくしているかなという気がするので、そこを少し後押ししてあげれば、みんなどんどんチャレンジをしていくと思っています。

県ではＵ・Ｉターンの方の移住への支援もしていますし、移住してきて起業をする場合の応援も別にしています。また私も還暦になりましたが、私たちのような世代のみなさんにも活躍していただけるように応援していきたいと思っています。

【司会】

靏田さんは県内で活動されるプレーヤーとして、県の取り組みについていかがですか。

【靏田】

僕は２２歳の時に会社員を辞めて敦賀に帰ってきたんですけど、やっぱりチャレンジと言えば聞こえは良いですけど、崖から飛び込むくら恐怖心はあって。本当に怖いなと言う経験をしたからこそ、ただチャレンジを応援してくれる存在、いいねと言ってくれる存在が多いに越したことはないなと思っています。そういった人が周りにいてくれる人こそチャレンジができるなって。県外から帰ってきて、福井県って良くも悪くも真面目な県民性で、チャレンジがしにくいなって感じる時もあるんですけど、それを応援してくれる存在ってありがたいですね。

【知事】

昨年、学生の起業家や新しく会社を興した若い人たちとお話をさせていただいて、福井県社会はとても温かいコミュ二ティがあり、これから何かをやろうという時に、先輩が自分の利益のためじゃなくてとてもその若い子を育ててあげようという事で親身になってお話に乗ってくれるし、時には怒ってくれたりするとお聞きしました。都会はたくさん機会があるけど、あまり他人に興味がない。しかし福井の場合だととても親身になって、初めて会っているのに教えてくれて、だからとてもチャレンジしやすいんですって言っていただいて、とても良いなと思います。

**（自らの可能性に挑戦する子どもの育成環境）**

【司会】

みなさんの子どもの頃のチャレンジエピソードを伺いたいと思います。高橋さんは中学時代に「モーニング娘。」のオーディションを受けて見事合格し芸能界での活動をスタートされました。きっかけ教えていただいても良いですか。

【高橋】

小さい時は宝塚を目指していたのに、急に「モーニング娘。」のオーディションを見だして。ひとつ歳上の後藤真希さんが加入した事によって、雲の上の存在がギュッと縮まったというか、後藤真希さんの年齢だけを見たらチャンスがあるかもしれないと思って、父親に内緒でオーディションを受けました。どんどん受かってきたらお父さんを説得しないといけないってなって。宝塚じゃなかったのかって怒るわけですよ、お父さんは。

【靏田】

チャレンジしてみようとかオーディションを受けてみようっていうのが怖いなって感じた事はないですか。

【高橋】

私の元々の性格で、怖いなっていうよりはやってないのに止めるのは止めようって。だからマイナスの事は考えてなかったかもしれないです。

【知事】

でもそうですよね、やっぱりやらないで後悔するよりはやって後悔するというか、やらないと始まらないから。人生も始まらないし楽しい事も始まらないし。

【司会】

靏田さんは子ども時代　チャレンジエピソードはありますか。

【靏田】

祖父が築年数が２００年くらい経ってる家に住んでいたんですけど、そこで３歳くらいの時に竹を切って流しそうめんしてたんですね。

僕がちょうど小さい時っておもちゃで流しそうめんの機械があるんですが、僕は竹でやったことがあるから、それだと全然楽しくなくて。だから何かやるなら大きい事をしたい、みんなが出来ないような事もやってみたいっていう気持ちは、その当時のチャレンジで身に付いたのかなっていうふうに思いました。

【司会】

その、チャレンジ出来るような人が育つには子ども時代からの周りの環境も重要になってくると思います。こうした環境を充実させていくためには、知事はどういった事が必要だと思われますか。

【知事】

やっぱり周りの理解だと思います。親や兄弟、地域性もあったり、学校もあったり。そう意味ではですね、教育委員会も、今までも学力体力日本一という事で、全国トップクラスの教育をお子さんたちにしてきました。そして新しいプランの中では、学びを楽しむ。興味関心を持って学びを楽しむとか、個性を育てるとか、そういう事を中心に置いています。

成功体験はもちろん失敗体験もとても重要で、その時に失敗しても、あなたはここまで頑張ったとか、そのチャレンジが良いよ、大丈夫だよと言ってあげると、子どもはまた次にチャレンジしようとなるし、次はこの失敗をしないようにしようとするので、だからやっぱりチャレンジの裏にはですね、先に転ばぬ先の杖というより、失敗した後に周りが大丈夫と言ってあげられるか、その子に自信をつけさせられるかっていう事が必要だと思います。

【靏田】

僕も会社員を辞める時に失敗が怖くてずっと悩んでいた時期があったんですけど、子どもの頃を振り返えると、あまり失敗する事を止める親じゃなかったなと思います。

今、周りを見ると、失敗しないように道を整えてくれる大人の方がけっこういらっしゃるのかなと思うんですけど、一回失敗して良いよって言うのは中々難しいと思います。そういう環境をもっともっと作っていくと子どもたちが挑戦しやすい場って自然となっていくんじゃないかなって思います。

**（新分野へのチャレンジ）**

【司会】

靏田さんは一般的な会社員という立場から新しい分野に進まれましたが、その時の思いを聞かせてください。

【靏田】

自分の身ひとつで何でもしていかなきゃいけないっていう怖さを感じました。しかし僕は人生長く生きる中で、なるべく楽しい事を長い時間やっていきたい、好きな人と一緒に時間を過ごしたいっていうのを考えると今の環境ってピッタリだなと思いましたし、友達なんかに心の底からお薦めしたいです。この生き方は本当おもしろいよって、なんか大変な分おもしろいよって伝えたいなって思いますね。

【知事】

大体の方とお話をしていると、まさにチャレンジをすると、まず３年は苦労されますよ、とお聞きします。新しい商売だと、まずお客様がいらっしゃらない、存在すら分かっていただけていない、そんな中で３年本気でもがいているとみんな立ち上がってきてだんだん順調にいかれます。だからその事さえ思っていればどんどんチャレンジって出来るんだと思いますね。だからそういった事を周りが友達も一緒になって応援してあげると良いと思います。

【司会】

高橋さんも２０２１年に新たにファッションブランドを立ち上げられましたよね。

【高橋】

私元々洋服を作るのは好きだったんですけど、まさか自分のブランドを作る事になるとは思ってなくて。でも、ある時に「チャレンジしてみよう」という気持ちになった時期があって、やらせていただきました。福井の生地を使ってたりもするので、福井の工場にもおじゃまして、実際に職人さんが生地を作っている姿とかも見て、これを実際に知ることって大事だなって思って、よけいに洋服が大好きになって、だからブランドを持って良かったなって思いました。

【司会】

こうした若者による起業について知事どう思われますか。

【知事】

元々福井県は社長輩出率日本一ということが４０年くらい続いていて、ある意味、新しく起業する人の数は人口も少ないのでそんなに多くないのかもしれませんけど、まず諦めない頑張り抜く、この精神は強いので残っていく。だから長く続いていく企業さんも多い。そういう意味ではチャレンジ精神は低いわけではない、新しい事を始めようというのはみなんさん思っていてくれる。

そのため、起業家を支援するため、福井ベンチャーピッチというイベントも開催しています。会社を興したばっかりでこれから次の一歩という時に、なかなか出資が集まらないなかなか融資が集まらない時に、ベンチャーピッチでプレゼンして、出資を募ったり人を出してもらったりする。また、その前の段階でアイデアをビジネスにする、会社を上場させる応援をしていくとか、段階に応じてやっていける環境を、今、一生懸命整備をしています。

**（福井の魅力発信）**

【司会】

来年には北陸新幹線が敦賀まで開業します。たくさんの人に福井に来てもらうためには福井の魅力をどんどん発信していかなければならないと思います。高橋さんは「ふくいブランド大使」に就任していますが、高橋さんが県外の人にＰＲしたい福井の魅力を是非教えてください。

【高橋】

まず空気が美味しい事、お水が美味しい事、お水が美味しいって事はお米も美味しい、日本酒とかお米から出来る物も美味しいです。そして、一番思うことは、人が良いことですね。人が温かかったりとか。私が帰ってきた時に思うのが、「愛ちゃんおかえり」って絶対言ってくれるんですよね。

すごく近い存在でいてくれるっていうのを、福井に帰ってきて、福井ってなんて良いとこなんだろうっていつも思っているのでその温かさを知ってもらいたいなって。東京に住んでいるとなんか、東京の事を悪く言うのもなんですけど、ちょっと冷たいなっていう感覚になっちゃうんですよね。よりどころじゃないですけど「福井に来てくれれば温まるざ」「寒い福井でもあったかいんやよ」みたいな事をちょっとアピールしたいですね。

【司会】

その人の温かさを分かるためには来ていただかないと、という事ですよね

さて、知れば知るほど良いところがいっぱいなんですけども靏田さんたちあいとらが福井の魅力を全国に発信するために県内20か所の絶景スポットをドローンを使って撮影して制作した「あなたはまだ本当の福井県を知らない～THIS　IS　REAL　FUKUI～」「第３回日本国際観光映像祭」で最優秀空撮賞を受賞されました。作っている時に感じた事ってありますか。

【靏田】

このタイトルの「あなたはまだ本当の福井県を知らない」のあなたには僕も入ってて、の自分が全く知らない事にけっこう驚かされたところからこの作品を作ろうと思ったんです。

僕は１回県外に出ていたので、やっぱり若い頃は都会に出るぞ、都会に住みたいって欲望があったんですけど、実際に行ってみると、僕は福井の方が好きかもしれないなと。今、福井県は「地味のすごい、福井」ってテーマをつけていらっしゃると思いますが、本当にその通りで、地味なんだけど良いところが詰まっているのが幸福度１位になってる理由かなと思っています。そこをＰＲしようと思った時に、地味ってどうしてもＰＲしにくいので、最初は地味じゃいけないだろうって事で最初に絶景を集めて、これは日本回ってもここにしかないんじゃないかっていうスポットを、ちょっとプライドを持って、自分よりうまく撮れる人がいちゃ困るって制作しました。そこからやっぱりちょっとずつ地味なところの福井っていうのが伝わったら良いかな、と思っています。

【司会】

福井の魅力を全国に発信しようと思っていらっしゃる二人のお言葉を聞いて知事いかがでしたか。

【知事】

実は、本当は「地味にすごい」の「すごい」に意味があって、すごいは本物っていう意味だと思うんですよね。福井には本当に本物があると思いますね。本当に優しい人間の温かみというかとても大切にし合うそういう本物の心があって、みんなが応援をしてくれるというか、本当にチャレンジしていけるっていうのは。

本当に良い景色でしたよね。私ユーチューブ見ましたけどあんな映像をきちっと撮るって大事だなと思って、とても本物っていうのが良く分かって良いなと思ったんですよね。だからそういう意味でも、地味にすごい、福井は本当に本物という事で、全国に自慢もできるし、みんなに刺さるようなPR発信の仕方もしていきたいなと思いますね。

【靏田】

車中泊した甲斐がありました。

【知事】

だって、場面が本当に朝日が昇るとそこの良い場所をちゃんと選んでいるから、それから大野城のところとかね。本当朝もやの中に大野城があるなんて、あんな１日や２日じゃ撮れないですよね。

【靏田】

ほんと、そうなんですよね。来ないとわからないんですよ。５回行ったんですけど、夜中３時スタートで敦賀から大野まで行って全く霧かかってないと。これで撮っても意味ないからこの日は帰るっていうのを５回くらい繰り返して撮ったんですけど、やっぱり、それをする事によって本物見る事が出来ましたし、他県の方から見ても本物を感じるっていう点では楽しい景色だと思うので、是非来ていただきたいですね。

**（県民へのメッセージ）**

【司会】

苦労があったからこそ撮れた映像だったんですね。それでは最後になりますが今後の抱負そして県民のみなさんにメッセージをお願い致します。まず高橋さんからお願いします。

【高橋】

これだけチャレンジしても良いんだよというのが整っていますので、もしちょっとやってみたいなってちょっとでも良いと思うんですよ、本当にちっちゃくたて大きくたって本当にやってみない事には分からないと思いますのでそれを私も応援していますので、是非みなさんその一歩を踏み出してみてください。今日はありがとうございました。

【司会】

続いて靏田さん宜しくお願い致します。

【靏田】

チャレンジをして良いよって言うのは簡単だと思いますし、でもそれでもやっぱり一歩を踏み出せないって方が、僕も含めてですけどけっこういるなと思うんですけど。

本当に福井の方々ってチャレンジして良いよって言ってくれますし、本当に優しいですしこの優しさがなかったら僕今日ここにいないと思うので、こういう機会を与えてくれる、本当に優しい方が多いなと感じるので、その一歩踏み出してみると二歩目三歩目って思ったより怖くないと感じられるって僕は身をもって経験できたので、そういった方は福井県民の方じゃなくても福井に場所を移してチャレンジする場所として活用していただくのも良いんじゃないかなと思います。

【司会】

福井がもっとワクワクドキドキするように、楽しみですね。

それでは知事、最後に抱負をお願いします。

【知事】

今のお二人の、本当に、これまでに挑戦しながらやってきて、今度は後輩に対してというかみんなに対して元気を与えてくれるっていうそういう素晴らしい生き方をしていただいているなというふうに思います。これも福井県という県民性、こういう環境が生んだお二人だと思いますしやっぱり大事な事はチャレンジという事だと思いますね。

私も含めてとても悩んで、良いのかなこれ、と思う時があるかと思いますけど、そういうのを周りも一緒になってチャレンジが出来るような環境を作ってあげる、とても大切だと思います。

そういう意味で福井県は来年になると北陸新幹線が福井・敦賀までやってきて、その２年後には中部縦貫自動車道が、これが岐阜県までつながると中京と直結する。こういうふうになってくると、とても可能性、少し何かやってみた時の反応がとても大きくなっていく、そういう環境になっていく。ワクワクドキドキってさっきもお話をされましたけども、とても良いタイミングだと思いますので、これからですね、またみなさんのような見本にしてですね、若い方そしてアクティブシニアと言われるようなですね、私たちの世代も含めて頑張れる、女性活躍っていうのもとても大事ですからこういう事も応援できるような環境も作っていきたいなと思います。

【司会】

今日この時間で福井への期待が本当に高まりましたね。

高橋さん、靏田さん、そして杉本知事ありがとうございました。

【３人】

ありがとうございました。